

令和5年度

第2回福島県スポーツ推進審議会

議 事 録

令和6年2月8日（木）

令和5年度第2回福島県スポーツ推進審議会 議事録

○ 日時

令和6年2月8日(木) 13時30分～15時30分

○ 場所

中町ビル 2階 大会議室

○ 会議成立宣言

福島県スポーツ推進審議会条例第5条第3項により、委員17名のうち13名の出席があり会議が成立する。

○ 出席者13名

【委員】 13名

対面出席	伊藤 晴稔	氏家美代子	菅家 礼子	菊池信太郎
	熊ヶ谷頼子	齋藤 徳子	須藤 康子	中村 啓子
	長岐 博	新井田 大	馬場 廣明	松井 義孝
	安田 俊広			

【事務局】 14名

名

《文化スポーツ局》

永田 嗣昭

・スポーツ課

穂本 哲哉 遠藤 文隆 星 祐司 植田 浩司

池上 健一 渡邊 元希 今野 翔太

・公益財団法人福島県スポーツ協会

飯塚 悟 阿部 仁 高田 誠 尾形 陽介

《健康教育課》

鈴木 哲 安田 篤史

1 開会 進行：スポーツ課 植田

2 あいさつ 福島県文化スポーツ局長 永田 嗣昭
福島県スポーツ推進審議会長 長岐 博

3 議長選出

福島県スポーツ推進審議会条例第5条第2項により長岐会長が議長となる。

4 議事録署名人

議長より、氏家委員、馬場委員が指名される。

5 議事

(1) 報告 ①令和5年度事業実績について 資料 1-1、1-2、1-3、1-4

②令和6年度事業について 資料 1-5

(2) 審議 ①福島県スポーツ推進基本計画における令和5年度の目標達成状況と今後の取組について

②その他

スポーツ課長、健康教育課長から説明後、質疑応答が行われた。

《生涯スポーツの指標について》

【齋藤委員】

成人の運動実施率に関して、私自身、生涯スポーツとしてソフトバレーボールに取り組んでいますが、ソフトバレーボールを例にすると、2009年を境に、競技者は減少しているそうです。コロナウイルス以降は、活動しているチームも半数になってしまいました。こういったオフィシャルな競技者やチーム数は減っているものの、その数字には表れない競技者もいるのではないかと感じております。福島県内に限った話ですが、競技連盟などが主催ではなく、参加資格が優しい大会は増加傾向にあって、これに参加する若い人たちは多くなってきていると感じています。オフィシャルな大会や競技者登録をしている数字としては減少傾向かもしれませんが、実際に活動している人たちはもっといるのではないかと感じております。

【穂本 スポーツ課長】

齋藤委員ご指摘の通り、我々が把握しきれていない数字があるのも事実だと感じております。今現在、正確な数字を把握する方法を持ち合わせていませんが、少しでも実態とのギャップを詰められるよう、努めてまいりたいと思います。

【安田委員】

生涯スポーツだけではなく、全ての指標に関わることだと思いますが、1つは、指標の達成状況における評価の方法についてです。令和5年度の結果は令和4年度と比較しての考察がなされていますが、これが適切かどうかという点です。例えば、成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率でいうと、令和5年度は、令和4年度と比較して数値が下がっています。考察では、コロナによる様々な制限から解放されて忙しくなったから、となっていますが、コロナによる制限が明けて、これからはもっともっと忙しくなったとすると、目標値からはどんどん離れていくとうことになるということが考えられるけれども、それで本当にいいのだろうかと感じます。単純に、令和4年度だけじゃなく、コロナ前のデータと見比べながら、今後の状況確認と取組が必要ではないかと感じたのが1つです。2つ目は、指標として定めている事柄が、世の中の状況と異なる部分があります。例えば、指標の4番、市町村のスポーツ推進計画策定状況では、以前は、国の方針として、市町村においてスポーツ推進計画を策定することを謳っていたけれども、今はその方針が変わ

って、必ずしも単独計画を策定しなくてもよくなりました。指標では令和12年度までに24の市町村において単独計画が策定されることを目標と定めていますけれど、こういった事情などを鑑みて、目標値の見直しをしないのかなと思いました。

【穂本 スポーツ課長】

安田委員にご指摘いただいた点、まさにそのとおりだなと思います。過去のデータとの比較について、この計画自体が令和4年度からスタートしたために、それ以前のデータを持ち合わせていないという事案もありますので、御理解いただければと思います。また、指標の目標値についてですが、世の中の傾向が変わりゆく中ではありますが、計画がスタートしたばかりということもありますので、まずは定めた目標に対しての数値を測りながら、時間をかけて検討してまいりたいと考えております。

【永田 文化スポーツ局長】

補足ですが、データの分析について、前年との比較だけではなく、当該年度における目標値との比較評価も行っております。また、この計画は令和3年度のコロナ禍での計画策定だったため、令和5年度の目標値については、多少、コロナの影響が加味されて設定はされておりますが、過去のデータの推移を分析した上で目標値を定めております。

【熊ヶ谷委員】

齋藤委員の御発言に関連します。スポーツを行う人口についてですけれども、私の地域でも若い人たちが集まって活動する団体がありましたが、コロナで活動が途絶えてしまいました。1度途絶えた事を再開するには、ものすごくエネルギーが必要ではないかと感じています。スポーツ実施率を上げるためには、若い人たちのスポーツ意欲を高めるための施策を打ち出していないと、数値の向上は難しいのではないかなと感想を持ちました。また、最近では、夏の気温が高温で、スポーツを制限しなければならない時が多くなりました。指導者のみなさんは、どのように発信させているのかってところも、伺いたいなと思いました。

【長岐議長】

夏の運動制限について、学校とそれ以外では対応も異なると思いますが、事務局いかがですか。

【鈴木 健康教育課長】

学校においては、国から気温に関する運動制限についての通知に基づいて、熱中症指数の基準を超える場合には、原則禁止するようという指示をしています。

【穂本 スポーツ課長】

社会体育においても、日本スポーツ協会からの運動指針に基づいて、活動を行うようお知らせしております。

【長岐議長】

気候ばかりは我々がコントロールできる問題ではないので、難しいところですが、国や県からの発信を参考に、注意して活動していただきたいと思います。

【菅家委員】

3つありまして、1つ目、指標についてです。例えば、生涯スポーツ指標の5番、生涯スポーツに関連する行事に参加した延べ人数ですが、目標値36万8,000人として、今より増やそうという意図は分かりますが、人口が減っていく中で、この数値は大変なことだと思います。計画を策定した時と計画の終期を同じ母数として仮定しているのかなと思います。その点が気になりました。2つ目です。大学の学生の言葉ですが、「みんなが上手に運動をやっている中で、私はうまくできないから、みんなに迷惑をかけた、だからあんまり運動したくありません、スポーツ嫌いです」という学生が少なくありません。運動・スポーツで競わせることは励みになる一方で、大人の関わり方によっては、スポーツから遠ざかっている人がいる、という実態があるということも心に留めながら対策を立てていくことも大切かなと思います。3つ目です。先ほどの夏の運動制限に関してですが、これまでどおりの活動を行おうと思うと難しいと思います。沖縄の方に聞いた話ですが、暑さを避けて運動をするために、夜に運動を行う習慣があるそうです。これまでの定説に囚われることなく、新しい発想で物事を考えていくことも必要かと思いました。

【長岐議長】

指標以外の所の取組についても事務局で検討していただければと思います。

【氏家委員】

指標の総合型地域スポーツクラブ事業への参加者数に関連してですが、総合型地域スポーツクラブは県内に何クラブあって、何クラブが登録・認証されているのか、また、制度が浸透しない要因は何かお尋ねいたします。

【飯塚 スポーツ協会局長】

令和5年度現在、県内には78の総合型地域スポーツクラブがあり、そのうち令和6年度に認証されるクラブは42になる予定です。登録が進まない要因としては、この制度のメリットが少ない事が考えられます。認証を受けるために、クラブは年間あたり八千円の登録料を支払うことが必要となっておりますが、この負担に見合うメリットが今のところ

ないと言うのが現状です。今年度、福島県からの委託事業として総合型地域スポーツクラブ支援アドバイザー派遣事業というものを実施しておりまして、運営に困っているクラブや、新たにクラブを立ち上げたいという団体に対して助言等を行っております。

【熊ヶ谷委員】

私も、地域の総合型地域スポーツクラブに関わらせていただいております、県のスポーツ協会の方からも登録・認証制度について御説明をいただいたところではありますが、クラブの財政が厳しいがために、年会費を払ってまで利用する制度としては、やはりメリットが少ないという感想をもっています。様々な補助金をいただき、なんとかクラブの経営を行っているのが現状です。制度利用によるメリットが提示されないと、制度の普及は難しいのではないかなと思うところです。

【氏家委員】

登録・認証制度のメリットにこだわってはいは制度が普及されないと思います。総合型地域スポーツクラブの発展のためにも、制度の普及に力をいれていただかないといけないと思います。

《競技スポーツの指標について》

【齋藤委員】

健康教育課の資料に朝食の摂取率が記載されていましたが、栄養も競技力に影響するのではないかなと思いましたが、本日、栄養士会の委員の方がいらっしゃいますので、御意見を伺ってみたいなと思いました。

【中村委員】

運動をするにはエネルギーが必要ですから、食事は競技力に影響を与えます。県のスポーツ協会には栄養士の部会がありまして、栄養士資格をもった人材がおりますので、ぜひ活用していただきたいと思っております。

【長岐議長】

スポーツ協会の取組を紹介していただけますか。

【飯塚 スポーツ協会事務局長】

中村委員からご紹介いただきましたとおり、県スポーツ協会では、栄養士資格を持った方の部会を組織しております。中には日本スポーツ協会の公認を受けた栄養士もおりまして、講師として各方面に派遣を行っておりますので、積極的に御活用いただければと思います。

【氏家委員】

競技力向上のためには指導者の充実も大切かと思いますが、川俣町では令和5年度、36名の方に指導者登録していただきました。地域で活動する指導者が、公認の指導資格を取ろうという時の支援策など、検討をお願いしたいと思います。

【新井田委員】

競技力向上には、指導者や審判員の減少も課題であると思いますが、スポーツを行う子どもの減少が一番の課題ではないのかなと思います。スポーツをする子どもを増やすためには、幼い時に、スポーツは楽しいと感じてもらうことが重要だと思います。色々なスポーツを経験できる環境を整備して、幼い子どもが気軽にスポーツに触れる機会を増やしていくことが、将来の競技力向上に繋がってくると思うので、こういった観点からの施策も考慮していかなければならないのかなと思いました。

《障がい者スポーツ、オリンピック・パラリンピックのレガシーに関する指標について》

【氏家委員】

障がい者スポーツの推進に関する取組として、出前講座事業と記載ありますが、川俣町のクラブでも講座を依頼して実施していただきました。講座以前は、パラスポーツは障がい者が行うものという認識がありましたが、この講座のおかげでパラスポーツを楽しむことができ、身近なスポーツになったなと思っています。引き続きこのような取組を行っていただきたいと思っています。

【長岐議長】

この事業はどのくらい実施しているのか、事務局に伺います。

【スポーツ課 渡邊】

氏家委員からご紹介いただきました事業について、様々な学校や地域団体に御活用いただいております。当初予定していた実施数を上回って事業を実施しているところです。出前講座を活用いただいた団体様からは、パラスポーツは障がいのある方が行うものだという認識から、みんなで一緒に楽しめるスポーツになったという声を多くいただいております。こうしたことから、事業を継続し、スポーツを通じた共生社会の実現を目指して活動して参りたいと考えております。

【齋藤委員】

今、お話があった出前講座は特別支援学校や福祉事務所など幅広く行うということですが、具体的にどのような施設を対象にと想定されているのかお聞きしたいと思います。

【スポーツ課 渡邊】

障がいのある方々が利用する施設や団体、さらには病院のリハビリ施設を想定しております。パラスポーツは、もともとリハビリの一環として始まった背景もありますので、障がい者の方だけではなく、幅広く声をかけていきたいと思っております。

【齋藤委員】

子ども達に通っている民間のデイサービス施設のような団体も対象になりますか。

【スポーツ課 渡邊】

対象になります。そういった団体様への周知は弱かった部分でもあるので、広報を積極的に行いたいと思います。

《その他》

【松井委員】

健康教育課から、全国体力運動能力調査の結果の報告があり、小学生が日常的に運動する時間を増やしていくという文言が見られました。以前にもお話しましたが、健康教育課で行っている縄跳びコンクールは、児童や教職員からの評判も良く、本宮市の全小学校にて取り組んでおります。子どもたちが意欲的に取り組む活動を、今後も続けていただきたいと思えます。また、今は縄跳びだけですけれども、現場では他の種目もあったらいいよねという声もありましたので、御検討いただければと思います。また、資料には ICT の活用についても記載がありましたが、現場では教職員もようやく機器になれて来たところだなどと思っております。体育の授業で、自分の体の動きを撮影してコツをつかむなどの取組が見られてきたので、今後も頑張っていきたいと思っております。さらに、資料には、児童生徒の朝食摂取率が掲載されていますが、この数値を見ると、5人に1人は朝食を食べていないという事になりますよね。運動との関連性があるかどうかは分かりませんが、学校現場だけではどうしようもない問題かと思っておりますので、こういった点にも視野を向けながら、取り組んで行く必要があるのではないかなと感じました。最後に、本宮市出身のアスリートで、国際大会に出場できそうなレベルの選手がいるということで、市内で話題になっております。学校としては、そういった人材と子ども達とが交流する場を設けて、子ども達の運動意欲を育てていきたいという意見がありました。こうした時に、ゆかりのアスリートを調べてみようとなったのですが、なかなか情報がでてこなかったもので、県で把握している情報などがあれば共有していただきたいということがありましたので、お話をさせていただきます。

【安田 指導主事】

縄跳びコンテストは、昨年以上に参加校が増え、盛り上がりが見えた事業でございました。

た。縄跳び以外の取組については、この場での回答は難しいものですから、本課に持ち帰りまして、課内で検討させていただきたいと思います。ICT の活用についてですが、例年、本課では、県内各地を周りって体育の先生方と協議会を持たせていただいています。その中での意見ですが、体育の授業において、ICT を使うことに主眼が行ってしまい、本来確保しなければならない体を動かす時間が疎かになってしまっていた部分もあったのかもしれないとの反省がありました。県教育委員会としては、ICT を使うことも大切だけれども、子ども達が息を弾ませるような時間を確保してほしいと、体育の先生方にお話しさせていただいたところでございます。

【飯塚 スポーツ協会事務局長】

スポーツ協会では、国際大会等へ出場する選手・スタッフの把握に努めているところです。高校出身や、現在の所属については把握しています。御相談いただければ、情報を御提供したいと思います。

【菊池委員】

幾つか感じたことをお話ししたいと思います。事業の検証は、数値目標を立てて、その目標にどれだけ到達したかという点が論点になりがちだと思います。国民スポーツ大会の順位や得点の指標を例にすると、実現可能かどうかは別として、極論を言えばお金と人をつぎ込めさえすれば、数値は改善すると思いますが、でも、点数を上げることが本来の目的ではないと思います。例えば点数を上げることを目的にすると、点数を上げるための練習をしてしまうわけです。でも、本来は、子供がどれだけ運動やスポーツが好きか、体を正しく動かせるかというところが、大事なポイントだと思います。点数は後からついてくるものであって、そこを見失っている可能性があるかなと思います。私も、運動がすごく苦手でした、小学生の頃は体育の授業は良い思い出はなく、嫌いでした。国語や算数は、点数悪くても、誰にもテスト結果を見せなければ成績は知られないと思うのですが、体育だけは全員が分かっけてしまいます。走るのが遅いとか、逆上がりが出来ないとか、子供の自尊心、自己肯定感が引き下げられてしまうと思います。ですから、そういった事態にならないよう、スポーツは好きか嫌いかという問いに対して、全員が好きと答えるようにする、という目標にするほうが、結果として、色々な競技の成績もあがっていくのではないかなと思います。スポーツが好きな子どもを増やそうと思うと、小学校レベルからの対応では遅くて、それより幼い年代の生活習慣からアプローチするような政策が必要かなと思います。保育所などの幼児施設は数多くありますが、広い運動場を持つ施設は数少ないわけです。ビル中のある小さな施設で過ごすのと、広い運動場のある施設で過ごす場合では、発達が全く違って来るわけです。こういった背景があることも常に考えなきゃいけないかなと思います。運動は、あくまで、人間が生きていく上で一つの要素だと思います。特に子供の場合は、心と体と脳が、同時に発達をしていかなきゃいけないわけですが、これを伸ばすために、運動は必要だと思いますが、運動以外のコミュニケーションや

勉強などのさまざまな要素が相互作用をもって成長に繋がるわけですから、総合的に子どもたちの生きる力、学びに向かう力を醸成するような環境を作ることが、何より大事なのかなというふうに思います。例えば人口が減っていく中で、人口を増やそうというのであれば、先ほど述べた環境づくりなどが結果として、その問題の解決に繋がる可能性もあると思いますので、この審議会やスポーツ部署だけではなく、さまざまな分野と関係を築いて連携を取った施策を展開していかなければならないのかなというふうに思います。福島県で生きる人たちが心と体が健康で健やかであるということが目標と設定されれば、結果として何でもいいと思いますのでそういうふうに思いました。最後に、集団生活がうまくいかなくて、発達障害などと診断される子どもについてですが、そういった子どもは運動機会がほとんどないのが現状です。学校の部活にも参加できないなど、なかなか難しいとは思いますが、こういった子どもたちもいるということに目を向けていただければなと思いました。

【穂本スポーツ課長】

貴重な御意見ありがとうございます。ご指摘の視点を持って事業を構築していく必要があるかと思しますので、引き続き御意見いただければ幸いです。

【須藤委員】

ふたば未来高校を例にしますと、バドミントンでの活躍をよく見聞きいたしますが、これは県が力をいれて取り組んでいらっしゃるからこそその結果だと思います。つまりは、成し遂げたいことに対しての予算を確保ということが大切なのではないかなと感じております。県の方には、スポーツがいかに重要なことなのかということ論じていただきまして、少しでも多く予算を確保して事業に取り組んでいただきたいと思いました。

【馬場委員】

中体連の立場から発言いたします。御承知のとおり、休日部活動の地域移行に関連いたしまして、中体連の大会に、地域クラブが参加するようになりました。今年度は、競技団体の推薦によって、県大会から1チームのみ参加していただきましたが、次年度は、地区大会から地域クラブが参加可能とできるような仕組みとするよう検討しているところです。夏の高温下での活動についてですが、屋内競技の大会については、冷房設備が整った施設で行うこととしておりますが、会場数が限られていたり、冷房費用がかかったりという課題がございます。また、子どもの減少等に影響され、参加人数を満たさないチームも散見されるなど、さまざまな問題がございますが、休日部活動の地域移行も含めまして、中体連としての今後の在り方が問われていると思います。関係機関と協力しながら、試行錯誤して対応に当たっていきたいと思っております。

【伊藤委員】

私が住む須賀川市にはスポーツ少年団が30チームありますが、スポーツ少年団の状況は市町村によって異なると思います。休日の部活動地域移行もあって、スポーツ少年団は重要な役割を担うことになるだろうと思っています。スポーツ少年団を充実させるかどうかは市町村にかかっていると思います。スポーツは、各競技団体にお任せなどという状態では、スポーツ環境を充実させることは難しいと思いますので、この点について、行政もしっかり取り組んでほしいと思います。部活動地域移行については、クラブ化が進み、部活動に入らない人が増えると思います。しかし、部活動に入る人は減るが、スポーツを楽しむ人は増えるのではないのでしょうか。部活は残しつつ、それで物足りない人はクラブに参加するので良いと考えています。また、競技力の向上についてですが、一昔前は、競技に取り組む子どもの数も多かったので、自然と競技力も向上したように思いますが、これからはそうはいかないと思います。100人に1人、優秀な選手が出ていた時代から1000人に1人になったとしても、その1人の競技力を伸ばすことに注力し、残りの999人はスポーツを楽しめる状況になればいいのではないかと考えます。競技力向上のためにもスポーツ少年団を充実させることが大切だと思いますし、スポーツ少年団が充実すれば、スポーツに親しむ人も増えるかもしれません。

【長岐議長】

部活動は過渡期にあって、地域移行の担い手がスポーツ少年団なのか、または別な団体を作るのか、地域それぞれの事情があると思います。県も教育委員会を中心として様々な事に取り組んでいるところだと思います。単にスポーツの普及だけでなく、子ども達を育てるという意識をもって、この問題に取り組んでいただきたいと思います。

7 その他

その他として、事務局及び委員からの発言は無かった。

15時30分、閉会